

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 567 号	氏名	池 田 喬 哉
学位審査委員		主 査	吉 浦 孝一郎
		副 査	増 崎 英 明
		副 査	宮 崎 泰 司
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価			
本研究は、非小細胞肺癌組織の手術標本，バイオプシー標本等から DNA 抽出後に上皮成長因子受容体（EGFR）の変異検出法として 1) 変異濃縮 PCR 法 2) peptide nucleic acid-locked nucleic acid PCR clamp 法 3) invader 法 の三法の変異検出率を比較検討しようとしたもので，目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価			
EGFR チロシンキナーゼ阻害剤治療歴のない進行性非小細胞癌患者 50 名を解析対象とした。得られた試料に癌細胞が含まれていることを確認後に DNA 抽出し分割して，上記三法によって頻出変異部位に関して変異解析を行った。DNA 抽出法，変異解析法，結果の評価等，研究手法は妥当である。			
3 解析・考察の評価			
上記手法で解析した結果，17 例で EGFR 変異を確認し，17 例全例とも EGFR チロシンキナーゼ阻害剤が有効であった。17 例中，12 例は三法すべてで検出可能で，5 例は少なくとも一法で変異が検出できなかった。三法のなかで，変異検出率は変異濃縮 PCR 法が最も高かった。しかし，5 例は変異検出の三法を行わない限り変異陰性と判断される可能性があり，今後の試料採取法，変異検出法の改善が課題であることが浮き彫りになった。本研究の結果は，肺癌に関する薬理ゲノム学的研究を大いに進展させると期待される。			
以上のように本論文は肺癌研究に貢献するところが大きく，審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			